

桂川だより

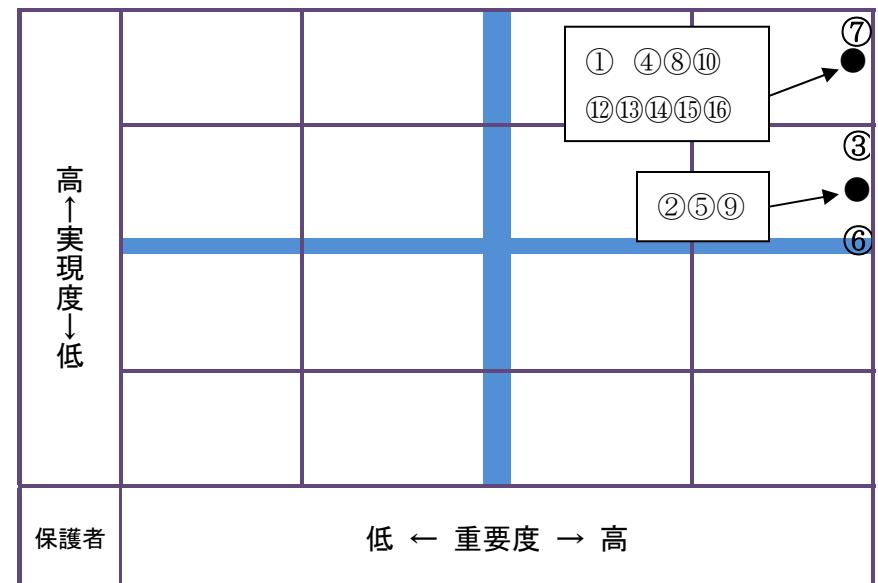
25年度 3月
特別号
京都市立桂川小学校
校長 奥田 直孝



学校評価アンケート集計結果

今年度第2回目の学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。それぞれの項目について、重要度と実現度についてお答えをいただきました。その中で重要性が高いと認められているにもかかわらず、実現できていないものは、改善の必要度が高いということになります。逆に重要度が高く、実現度も高い評価を受けた項目は、学校としての強みであり、長所であると受けとめられます。

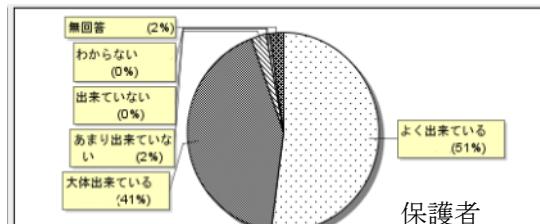
下の表はそれをまとめたものです。右へ行くほど重要度が高くなり、上へ行くほど実現度が高くなります。



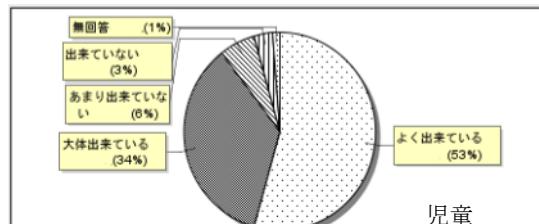
- ① 子どもに基礎的な学力が身につくこと ⑪ 思いやりの心が育つこと
- ② 自分から進んで学習する子に育つこと ⑫ 基本的生活習慣が身につくこと
- ③ 自分の思いを伝えることができること ⑬ 学校の考えが保護者に伝わること
- ④ 教師が分かりやすい授業を工夫すること ⑭ 学校HPやお便りで学校の様子が分かること
- ⑤ 家庭学習に進んで取り組む習慣がつくこと ⑮ 担任や学校に相談できること
- ⑥ 読書の習慣が身についていること ⑯ 学校が開かれた教育活動を進めていること
- ⑦ 楽しく学校に通っていること
- ⑧ 物事の善し悪しを判断して行動できること
- ⑨ 元気よくあいさつができること
- ⑩ きまりや約束を守って生活すること



子どもが楽しく学校に通っていること



保護者



児童

本校が目指す「行きたい・行きたくてたまらなくなる学校」への実現が図れつつあると考えます。「学校生活が楽しい」と思っている児童も9割近くおり、学校生活全般において生き生きと活動する姿が見られました。子どもが「学校生活が楽しい」と感じるのは、何より『友だちとの関わり』です。仲の良い友だちと遊んだり、話したりするのは誰にとっても楽しい事だと思います。しかし、学校での『友だちとの関わり』は、学習の時間をはじめ、休憩時間での遊びや語らい、当番活動や委員会・クラブ・部活動などにもわたります。また、その関わりは特定の友だちに限らず、誰とでも協力して活動することがとても大事になってきます。学習や様々な活動には集団のルールがあり、きまりを守ることは重要ですが、人として大切なものは『心』だと思います。「人の気持ちを考える」「思いやり・感謝の気持ちをもつ」子どもを育まなければなりません。

現実、毎日の学校生活においては、ちょっとした気持ちのすれ違いからトラブルになったり、思いをうまく伝えることができずに手をだしてしまったり、といったケースもあります。しかし、子どもたちはそのような経験から学習しながら少しづつ人として成長していきます。子どもを取り巻く環境は今後も激変していくと思われます。だからこそ、普遍的な物の見方や考え方を教え、いつも愛情をもって、時には厳しく、次代を担う子どもを育てて行きたいと思います。

自由記述欄より

- ・ **学校の様子・子どものことについて** ・ 「学校だよりやHP等で様子がよく分かった」、「子どもや親の不安や悩みを担任の先生に相談でき、解決に向けてすぐに動いてもらった」というご意見をいただきました。今後とも、タイマーな情報を発信、家庭との連絡を密にした教育活動を進めて参ります。
- ・ **教育環境について** ・ 「洋式トイレが設置され、トイレの臭いなどが改善されて良かった」「毎日トイレ掃除をしてはどうか」といったご意見をいただきました。掃除やトイレの使用についての指導を継続して取り組んでいきます。
- ・ **卒業遠足廃止について** ・ 子どもたちが楽しみにしていた行事ではありますが、昨今の社会状況を考慮し、保護者の経費負担削減を図るために廃止しました。何卒、ご理解いただきますようお願い申しあげます。
- ・ **子どもの教育について** ・ 「子どもたちは大人をよく見ている。良い見本となれるよう日々心がけたい」「学校や担任に相談できる環境にある。それ以前に家庭内の話し合い、親子関係だからできる解決があると思う」といったご意見をいただきました。このお考えは、以前、学校だよりでお知らせした内容ですが、大変重要なことと受け止めます。今後も協働の教育活動を進めて参ります。

他にも様々なご意見をいただきました。今後の参考にさせていただきます。

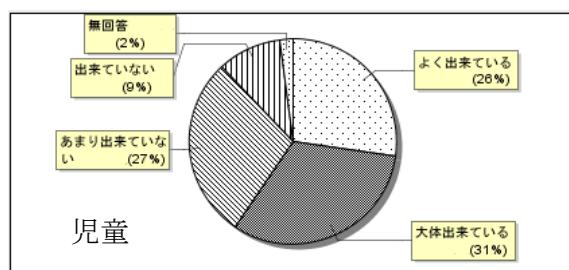
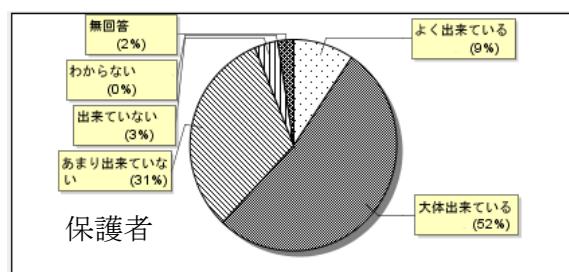
本校の課題

すすんで学習する

児童のふりかえりでは「授業中はすすんで発表している」については、6割の児童が「できている」と回答しています。また、「わからない時は質問したり調べたりして解決している」については、6割半の児童が「できている」と回答しています。4割近い児童は、「発表しない」、「質問しない」、「分からぬままにしている」といった結果がでています。

保護者からのアンケートでは「自分から進んで学習する子に育っている」「家庭学習に進んで取り組む習慣が身につくこと」について、「大変重要です」が6割の実現度でした。授業参観で感じられたことや家庭学習の姿から感じられたことからの結果かと思います。

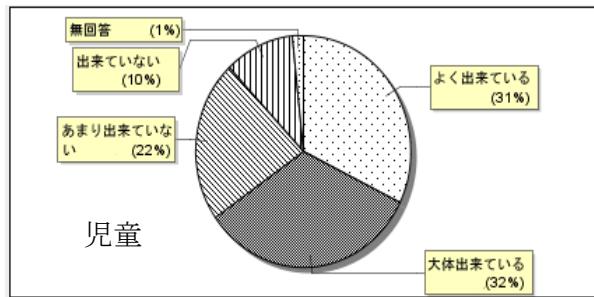
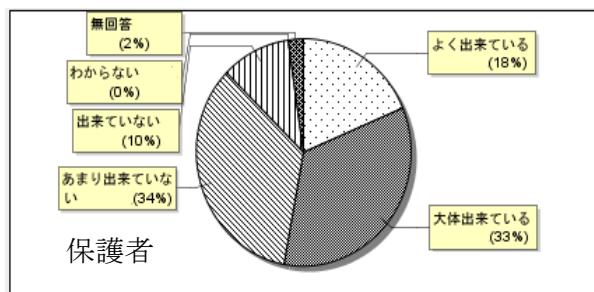
毎日の授業の中で、問題解決型の学習展開を図り、一人一人が自分の考えを伝える場や機会を意図的に設け、集団が高まり合う授業の構築を粘り強く図っていきたいと考えます。また、家庭学習の内容を精選し、基礎的なものの積み上げを継続しながら、自分のつまずきに気づき、もう一度教科書やノートを振り返り学習を確かなものにしていく子どもを育てていきたいと思います。



読書の習慣を身に付ける

「読書が好きで本をたくさん読んでいる」の回答は6割、「読書の習慣が身についている」と感じられている保護者の方も6割でした。学校では毎朝「ぐんぐん読書」の時間を設けていますが、その他にもPTAによる絵本の読み聞かせ、絵本館の方の魅力的な絵本の紹介、学校運営協議会による土曜学習での読書教室、図書館の本の充実を進めてきました。教室や図書館で自分の気に入った本を読む児童は多いと思われますが、学習に関わる図書の利用はそれほど多くないと考えます。手っ取り早いインターネットにたより、図書に必要性を感じていないのではないかでしょうか。また、ゲームといったバーチャルな世界にはまり、抜け出せない状態も読書から遠のく要因と考えます。

学力定着調査結果から見ても、『文章を読んで答える問題』の正答率は、決して高くありません。読む力（読解力）は国語科だけで高まるものではなく、あらゆる教科や活動において言語活動（コミュニケーション能力）を重視した取組を進めています。加えて休日の過ごし方も含めて読書の習慣を身に付けてほしいと考えています。



元気よくあいさつができる

「元気よくあいさつができる」と回答した児童は7割半、保護者の実現度評価は6割でした。1回目の学校評価においてもこの項目についての状況と課題解決に向けた取組を発信してきましたが、依然として子どもの様子に大きな変化はありませんでした。学校の門をくぐるときは「おはようございます。」とあいさつをするのですが、登校途中や下校時の見守りをしていただいている地域の方にはあいさつができないのが現状です。また、声をかけても返事をしない、注意しても聞かないといったご意見もいただきました。

教職員による登校指導や下校時の見守り活動をしていますが、「先生が見ているから」「注意されるから」ちゃんとする、逆に「見られていなければ何をしても構わない。」という気持ちになっているのではないかと思います。形式的な指導は効果がないとは考えていません。これまで同様粘り強く指導していきますが、返事をすること、人が言うことに答えること・耳を傾けること、人の目を見て話すことの大切さを理解させていきたいと思います。将来、社会的・職業的に自立した生活を送っていくためには子どもの頃に当たり前のこととして身に付けていかなければならないものです。そのために、まずは大人が良い見本を示していくかなければなりません。今一度、目の前の子どもをどう育てるのか考え、子どもと共に話し合う機会をもっていただきたいと思います。

